

平成30年度 大阪国際大和田中学・高等学校 自己評価

大阪国際大和田中学・高等学校
校長 中井 孝典

1 めざす学校像

全人教育を基礎として礼節を重んじ世界に通じる心豊かな人間を育成する学校

【めざす学校像】～ さらなる躍進をめざして ～

- 礼節を重んじ国際社会に通じる豊かな心をもった生徒を育成する学校。
- 進学校として進学実績の向上をめざし、保護者から信頼され、期待される学校。
- 全てにおいて「チーム大和田」として組織的に一丸となって取り組む学校。
- 日本や国際社会で活躍できる高い「志」を持った人材を育成する学校。
- 人権を尊び安全安心な学校として生徒や保護者が安心し、笑顔が溢れる学校。

【生徒に育みたい力】

- 高い教養と正義感に裏打ちされた豊かな人間力。
- 課題を乗り越え、高い志に向かって最後まで頑張り抜く強い精神力。
- 学んだ知識や経験をつかって応用や創造する考える力。
- 世界で活躍できる高い資質や能力。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 3年間を見通した高い学力の定着に取り組む

- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の「授業が良く分かる」の項目をAが平成30年度末において30%以上、平成31年度末50%以上をめざす。
- イ 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活をスムーズに連動させて学力を向上させる。
- ウ 文武両道を奨励し、部活動への参加者が80%（運動系、文化系の合計）以上をめざす。
- エ 高い志の涵養をはかるとともに、難関大学の合格者数を増やす。平成31年度の大学入試で京大、阪大、神戸大の合計人数を20人以上、関関同立にあっては、延べ合格者数を、250人以上になることをめざす。

(2) 学習指導の充実に取り組む

- ア 各教科毎に3年間を見通した学力育成プログラムを作成する。
- イ 本校の生徒実態を踏まえた、学習到達目標の点検を行うとともにさらなる充実に取り組む。
- ウ 電子黒板またはプロジェクターを全教室に導入し、一層の授業改善を行う。
- エ 授業評価と研究授業、公開授業の充実（教科の枠を超えた授業研究の実施）し、互いに見学する回数を1人平均3回以上にする。
- オ 英語に対する学習意欲を増加させ、英語検定2級以上の生徒が全校で150人以上、またはGTEC-CBTにおいて600点以上の生徒が受験者の80%以上になることをめざす。

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

（夢・志の育成とともに、豊かな人間性の育成）

(1) グローバルに活躍する人材の育成

- ア 海外の優秀な大学の授業を体験して世界を知らしめ、大きな刺激を与える。ケンブリッジ大学での研修を実施する。
- イ 海外研修を充実させ、世界を意識させるとともに英語力の向上をはかる。
- ウ 大阪国際大学と連携し、世界に羽ばたく意欲を高める取り組みを実施する。

(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

- ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な問題で登校できなくなる生徒を支援し、不登校状態の生徒を0に近づける。
- イ 学年連絡会を活性化させ学年団で生徒を支援する体制を構築し、入学した生徒が全員卒業できるようにする。

3 中堅、若手教員の資質の向上

- ア 新規採用教員に対して教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
- イ 若手教員に対しても教科指導力、生徒指導力の育成を図る。
- ウ 中堅教員に対しては学校運営の視点の育成を図る。
- エ 人権に対する意識向上を図る。

4 教職員の学校運営に対する意識の向上

- ア 職員会議の時間を1時間未満に短縮し、教員が生徒と係わる時間を増やす。
- イ PTAの活性化に協力する。
- ウ 学校における危機管理に関する研修会を開催し意識の向上を図る。

3 本年度の取組内容及び自己評価

自己評価：◎目標以上 ○ほぼ目標どおり △目標に達していない ×全く取り組めていない

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 大和田スタンダードの実施と検証を行い各教科ごとの到達度を高める。	(1) ア. 大和田学力育成プログラムの内容の充実を図る イ. 学習到達低位の生徒への組織的な対応 ウ. 土曜日の活用を研究し実施する。	(1) ア. 3年間を見通した学力育成プログラムの改良 イ. 補習、講習の充実 指名補講として10回以上実施する。 ウ. 3年生対象の進学講習等を10回以上実施する。	(1) ア. 3年間を見通した学力プログラムは新しくシラバスを作成するなど改良した(△) イ. 補習、講習は考查ごとに指名講習を実施した。(○) ウ. 夏期講習は昨年と同じ10日間実施した(○) また、3学期の通常授業後(2月)に進学者対象の特別授業を実施した。
	(2) 授業改善の取組みを行い授業満足度を向上させる。	(2) ア. 「一方的な授業形態を改め、双方向の授業」を今まで以上に推奨し推進する。 イ. 教員相互の授業見学を行い自身の授業改善を行う→見学回数5回以上(全教員) ウ. 授業力向上のために研究授業を行い国際大学教授等外部講師から評価を受ける。 エ. 先進的取組みの視察や授業見学などによる教科指導法の研究実施 オ. 英語教育の見直しを行う。	(2) ア. 学校関係者評価(生徒)の「授業が分かりやすい」のA評価が30%を上回る。 イ. 相互の授業見学5回以上 ウ. 各教科のべ3回以上 エ. 他府県等の視察3か所以上 オ. 「聞く」「話す」を取り入れた授業を展開する。	(2) ア. H30年度 26.2%(△) (A+B 81.5) H28年度 27.4% ⇒ H29年度 20.9% (A+B 88.3) (A+B 80.7) イ. 相互の授業見学4.5回(△) (最低2回、最大6回) ウ. 研究授業・各教科1回実施 外部への公開は出来なかった(×) エ. 他府県等の視察0回(×) オ. 高校1年生と2年生で週に1回プレゼンテーションを行う授業を実施した。また、学期末には全員の生徒の前で各クラスから選ばれた優秀な生徒の発表を行なった。(◎) また、概ね全ての英語の時間では「聞く」「話す」の授業を実施できた。
	(3) 自学自主の態度を養成し、意欲的に学習する姿勢の涵養	(3) ア. 家庭学習の時間の確保を行い、家庭で学習する習慣を身につけ、学習意欲を増加させ、自己の将来を展望させる。 イ. 高い志の涵養 ウ. 難関大学の合格者数を増やす。	(3) ア. 家庭での学習時間は平日には2時間、休日には3時間をめざす。 イ. 全学年の勉強合宿の開催 ウ. 国公立大学合格者数60人以上をめざす。 関関同立の合格者数の合計が250人以上をめざす。 (京大、阪大、神戸大の合計10人以上を維持する。)	(3) ア. 家庭学習 平日(9月比較) (△) 1年生 H29 1時間25分 ⇒ H30 1時間20分 2年生 H29 1時間43分 ⇒ H30 1時間28分 3年生 H29 1時間53分 ⇒ H30 1時間47分 休日(9月比較) 1年生 H29 2時間9分 ⇒ H30 2時間12分 2年生 H29 2時間33分 ⇒ H30 2時間15分 3年生 H29 2時間57分 ⇒ H30 2時間47分 ※勉強時間の減少が見られる。 イ. 全学年、勉強合宿を実施した。(○) ウ. 関関同立の合格者 212名(△) (関大 67 関学 8 同志社 37 立命 100) ※慶応2、早稲田1、東京理大1 国公立の合格者65名(○) 京都1、大阪8、神戸4、大阪市大6、大阪府大7、名古屋1、北海道1他

	(4)英語力の向上	(4) ア. 英検2級以上又は TOEFL 又 GTEC-CBT を受験する。	ア 英検2級を100人以上 TOEFL-IBT, GTEC-CBT の平均点	ア 英検の結果(○) 英検準1級取得者 中 0、高 5名 2級取得者 中 5、高 275名 準2級 中 36、高 494名 H30 新規合格者 準1級 中 0 高 2 2級 中 5 高 85 計 90 準2級 中 36 高 108 計 144 参考 H29 新規合格者 準1級 中 0 高 2 2級 中 6 高 189 計 195 準2級 中 47 高 227名 計 227 GTECの結果は集計中
2 グローバル社会に貢献できる人材の育成	(1) グローバルリーダーの育成をめざし、それにふさわしい素養を身につけさせる。	(1) ア. グローバルな視点を取り入れた内容の講演の実施 (外国人の研究者や留学生などによる英語による講演や発表も含む。) イ. English Camp (イングリッシュキャンプ)の実施 ウ. 海外の大学を活用した海外セミナーを実施する。 エ. 海外の高校との交流を実施する。 課題研究発表の機会として、双方の生徒の研究意欲の増進につなげる。	(1) ア. グローバルな視点の講演会、英語による講演会を計3回以上実施する。 イ. 阪大または京大に留学している学生等を活用する。 ウ. 海外の大学を活用した海外セミナーを実施する。 エ. 海外の高校生と交流する。	(1) ア. 英語による講演会(△) マルコビッチ教授講演(セルビア ベオグラード大) 「Japan and Serbia, two blossoms on the route to modernity」 H31.2.14 開催 心の学校 三遊亭白鳥「落語で笑顔に、不安解消」 浦上 大輔「PET TALK」人を励ます言葉 椎木 里佳「学校で教えてくれない大切なこと」 若手企業家 ロボットのぞみ「ロボットが止まるまでの物語」 イ. イングリッシュキャンプ(○) 大阪大学への留学生8名を招聘して1日英語漬けを実施。(本校のネイティブ2人も参加) ウ. Cambridge 大学研修。(○) Sidney Sussex College で実施した。 H30.8.2~8.10 参加者は12名 UCLSA 研修を実施。 H31.3.14~H31.3.19 参加者は大和田 7人、滝井 0人 ベトナム研修を実施。 参加者は大和田 3人、滝井 4人 エ オーストラリアの姉妹校から生徒が来校し有意義な交流をした。(◎) 7月 Scotch Oakburn College (13名) (Launceston, Tasmania) H30.7.11~H30.7.15 8月 Geelong Grammar School (5名) (Melbourne) H30.8.31~H30.10.1 9月 International Grammar School (Sydney) H30.9.15~10.7 (2名) 2月 高校1年生を4名GGSに奥田政三奨学金を付与して頂き派遣した。 International Grammar School に生徒を4名を派遣した。(新規交流校 シドニー) ※中学校では従前より3月にオーストラリアへ生徒を派遣している。今年は3人増の25人を派遣する。 派遣先 Scotch Oakburn College Church Grammar School

	<p>(2)生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進</p>	<p>(2)精神的な病等による長期欠席者または不登校者に対するケアを行う。</p>	<p>(2)担任と養護教諭、カウンセラーの連携を深める。</p>	<p>(2)教育相談委員会を創設して精神的に不安定な生徒のケアに努めた。(◎)</p> <p>精神的にケアが必要な生徒 計28名 (7名増) 年度当初 高1:7名 高2:6名 高3:4名 中1:2名 中2:4名 中3:5名 起立性障害で朝起きれない生徒が多数在籍していた。カウンセラーや担任の連携で頑張っている生徒がいる反面、起立性調節障害等でなかなか登校できない生徒がいる。 高校3年生の4名はカウンセラー、担任の連携で卒業ができた。</p>
<p>3 教員の資質の向上</p>	<p>・若手教員の育成</p>	<p>ア. 年間を通して、若手教員間での授業研究を促進する。</p> <p>イ. 教科指導力の向上をめざして大学と連携し、大学の専門知識をもった教授等から指導を頂く機会を作る。</p>	<p>ア. 新規採用の教員については相互の授業見学を1人5回以上行う。</p> <p>イ. 若手教員、新規採用教員全員が公開研究授業と研究協議会を1回以上実施する。</p>	<p>ア. 新規採用の教員は1人あたり3回～4回の授業見学を実施した。(△) 新規採用の常勤講師の授業を1人あたり3回以上見学し、指導を行なった。</p> <p>イ. 今年度はアクティブラーニングの研究を行い、芸術、体育、家庭を除く5教科で研究授業を実施した。</p> <p style="text-align: right;">(12月19日)</p>

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔平成31年1月～2月実施〕

【結果】

資料① 平成30年度 学校評価（生徒）アンケート集計表

資料② 平成30年度 学校評価（保護者）アンケート集計表

資料③ 平成30年度 学校評価（教職員）アンケート集計表

【分析】

1. 実施状況

対象		対象者数	回収数	回収率	調査期間	備考
生徒	高校3年	285	272	95.4	平成31年2月27日	資料①
保護者	全学年	1130	1033	91.4%	平成30年1月16日～29日	資料②
教職員	常勤	57	55	96.5%	平成30年2月1日～9日	資料③

2. 対象別アンケート結果

○ 生徒（高校3年生）

アンケートの項目（全30項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表1である。肯定的評価が80%以上の評価の高い項目は17項目で全体の56%、肯定的評価が60%未満の評価の低い項目は0項目であった。評価A+Bが90%以上の「評価の高い」7項目は昨年どおりであったが80%以上と比較すると2項目の減少であったがそれぞれ79.4%、78.7%であり大きな減少ではないと思われる。

表1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
30年度	7	10	10	3	0	0	0		30
29年度	7	12	9	2	0	0	0		30
28年度	9	16	3	2	0	0	0		30

ア. 評価A+Bが90%以上の「評価の高い」項目

- ・学校は学力向上に取り組んでいる : 91.5% ↑0.2
- ・先生は熱心に指導している : 91.7% ↑0.6
- ・学校は分からなかった時の補習、質問指導に熱心である : 90.1% ↓1.2
- ・困った時、相談や手助けをしてくれる先生がいる : 90.5% ↓3.4
- ・先生は生徒の間違った行動を改めるように指導している : 94.1% ↑2.4
- ・学校は緊急時の対応を生徒に伝えている : 91.5% ↑1.5
- ・学校は災害が起こった場合の訓練を行っている : 96.7% ↑2.3

イ. 評価A+Bが70%未満の「評価の低い」項目

- ・学校がより良く変わっているように感じる : 64.7% ↑1.6
- ・学校の施設・設備は学習環境の面で満足できる : 61.1% ↑2.4
- ・HPの内容は他校と比べ充実している : 68.4 ↓2.0

○ 保護者（高等学校）

アンケートの項目（全33項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-1である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は15項目で全体の45%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は2項目あった。その1項目は「学校のPTA活動には参加しやすい。」であり53.8%であったが、数字の上では昨年の53.9%より0.1%減少したが統計処理上では0.775人の減少であり、ほぼ同じと言える。また、「学校の施設整備は学習環境の面で満足できるか」との設問には53.5%しか肯定的な評価がなかった。昨今、近隣の私学では校舎を新築したり、ICTの充実を行なう学校が増えており、本校の校舎の老朽化が目につく結果ではないかと思われる。

評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」2項目は、以下の通りである。肯定的評価（A+B）の80%台、70%台の項目数が減少し、60%台が増加しており厳しい評価を得たと考えている。

表2-1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
30年度	2	13	11	5	2	0	0	0	33
29年度	2	15	13	2	1	0	0	0	33
28年度	6	18	6	2	1	0	0	0	33

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

- ・お子様は文化祭、体育祭、宿泊行事などの学校行事に積極的に参加している : 91.3% ↓1.6
- ・本校のHPを閲覧になったことがある。 : 90.6% ↑4.5
- （※事務職員の保護者への対応は良い） : 89.1% ↓1.7

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

- ・学校のPTA活動に参加しやすい : 53.8% ↓0.1
- ・学校の施設・設備は学習環境の面で満足できる : 53.5% ↓6.7

○ 保護者（中学校）

アンケートの項目（全33項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表2-2である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は19項目で全体の57.6%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は1項目あった。その1項目は「学校のPTA活動には参加しやすい。」であり59.4%であったが、昨年度は56.7%で2.7%増加した。一昨年度と比較すると4.6%の増加であり、毎年上昇している。PTA会長並びにPTA役員によるものと思われる。

評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」5項目は、以下の通りである。肯定的評価（A+B）の90%台の項目数が減少し、60%台が増加しているが、0.5%の差以内であり全般的には大きな差異はないと考えられる。

表2-2 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
29年度	3	16	11	2	1	0	0	0	33
28年度	5	14	10	3	1	0	0	0	33
27年度	8	15	8	1	1	0	0	0	33

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

- ・お子様は文化祭、体育祭、宿泊行事などの学校行事に積極的に参加している : 92.7% ↑0.6
- ・学校は資格、検定の取得に取り組んでいる : 94.2% ↓0.3
- ・学校のホームページをご覧になったことがある : 95.0% ↓0.3

※

- ・事務職員の保護者への対応は良い : 89.6% ↓4.1
- ・学校の文化行事（芸術鑑賞・講演会等）は充実していると思う : 87.7% ↓5.2

イ. 評価A+Bが60%未満の「評価の低い」項目

- ・学校のPTA活動に参加しやすい : 57.8% ↓1.6

○ 教員

アンケートの項目（全48項目）を肯定的評価（A+B）の割合で集計したのが表3である。肯定的評価が80%以上の「評価の高い」項目は23項目で全体の47.9%、肯定的評価が60%未満の「評価の低い」項目は15項目で全体の31.3%であった。評価A+Bが90%以上の「特に評価が高い」項目の11項目と評価A+Bが50%未満の「評価の低い」6項目は、以下の通りである。昨年度に比べて、大きな変化は見られない。

表3 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～20	～10	項目総数
30年度	13	8	8	6	5	3	4	0	1	48
29年度	11	12	8	2	7	2	1	3	2	48
28年度	20	10	4	5	4	2	2	1	0	48

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

- ・教育課程は学習指導要領に沿っている : 92.6% ↑1.9
- ・年間を通じた教育計画を各教科別に立てている : 98.1% —
- ・学校ホームページで可能な範囲で情報公開をしている。 : 98.1% ↑1.8
- ・中高生にふさわしい服装をすること、またはふさわしい行動がとれるように徹底した指導を行っている : 96.3% ↑1.9
- ・挨拶をすることや、時間を守る指導を通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。 : 100.0% ↑3.7
- ・生徒指導において家庭と連携ができている : 92.6% ↑1.9
- ・カウンセリング制度があり、活用されている : 98.1% ↑1.8
- ・保護者などへ授業を公開している : 96.3% ↑3.7
- ※募集活動が上手く展開され、生徒募集が上手くいっている。 : 61.1% ↓35.2

イ. 評価A+Bが40%未満の「評価の低い」項目

- ・評議員会、理事会の役割や機能について理解している : 18.5% ↑3.7
- ・初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある : 31.5% ↑9.3
- ・教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている : 31.5% ↑1.9
- ・研修、研究に参加した成果を、他教員に伝えて情報を共有する体制がある : 38.9% ↑11.1
- ※ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を行っている : 50.0% ↑11.1
- 併設大学・短大との連携体制が整い、指導が行われている : 31.5% ↑21.9

学校関係者評価委員会からの意見

- 学校関係者評価委員会 実施日時 平成 31 年 3 月 8 日（金曜日） 午前 10 時 30 分～12 時 00 分 実施
○ 会場：校長室

出席評価委員

大阪国際学園理事	鈴木委員
守口市立大久保中学校長	東野委員
寝屋川市立第五中学校長	坂口委員
大阪国際大和田三窓会会長	岩本委員
大阪国際 P T A 会長	小鹿委員
守口市大久保校区地域代表	小野委員

学校側出席者

大阪国際大和田高等学校校長	中井孝典
〃 副校長	鹿島秀樹
〃 教頭	黒川泰宏
〃 事務次長	浅野迅夫

次第

1. 校長挨拶
2. 自己紹介
3. 昨年度の指摘事項の概要と改善について
4. 今年度のアンケートの結果について
5. 評価委員会からのご意見及び評価
6. 副校長お礼の挨拶

○東野委員

- ①教員研修は昨年度より改善されているが、更に充実させて教員の資質を向上させる取り組みが必要ではないか。
- ②教員の教科指導力の改善が大学の進学実績の向上に繋がると思う。
- ③大和田中高が取組んでいる「ココロの学校は」は素晴らしい。

校長

①について

今後の社会は AI の出現や少子高齢化がますます進んで行く事が予想されている。加えて、グローバル化が進み、社会の構造や仕事の内容が大きく変わり何が起こるか分からない時代になることが予想されている。従って、今後生徒に求められる学力は知識を獲得するだけではなく、自らが主体的に学び、解決すべき課題を発見したり、協働により課題を解決する力が求められるようになる。学校教育においては、従前の様な画一的で教員が一方通行的に行う授業を改善して、生徒が主体的に授業に取り組む様にする必要がある。そこで、今年度は全ての教科でアクティブラーニングの研究に取組ませ、12月に5教科で研究授業を行い、教科毎の研究協議も実施した。それまでの過程でも教員は互に授業を公開して意見交換することを求めた。その結果、アンケートの結果にも表れているように、「教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。」の項目の肯定的な回答が83.3%に達した。また、「公開授業・授業アンケート等が定期的実施、また反映され、授業改善への取り組みが行われている。」の項目も肯定的な回答が68.5%になった。

これらの数字は昨年度と比較すると改善は見られるが、さらに教員の授業力の向上に努めて行きたい。

②について

大学への進学実績は本日現在では国公立の公表が無いので昨年度と比較しにくいですが、大阪大学が実施している AO 入試（世界適塾入試）で2人が合格した。この入試は単に学力として知識だけを問う入試ではない。大阪大学のアドミッションポリシーに基づいて本人の高校3年間の取り組みを問うと共に、大学に入ってからの学習意欲や本人の目標を問うものである。非常に難しい入試であるが2人の合格者を出したことは本校の教育の姿勢が反映できているものであると考えている。

（※追記 3月25日現在の大学合格者：国公立大学は京都1、阪大8、神戸4、名古屋1、北海道1など65名の合格者を出している。

難関私立大学：関関同立は212名、早稲田1、慶応2、東京理科大1などの合格者を出している）

③について

本校では教育の理念である「礼節を重んじ世界に通じる心豊かな人間を育成する」に基づき、心の教育には非常に積極的に取り組んでいる。年間に5人～7人の方々にお越しいただいて現在の職業はもとより、人生観や今までの足跡を語っていただくことにより、生徒の心の琴線にふれさせ、生徒自身に人としての大事なことを学ばせる取り組みである。本校の生徒は今後グローバルに活躍する生徒であると考えている。今後もしっかりと心の教育を行いたい。

2. 坂口委員

- ①「いじめや暴力の無いクラス作りに励んでいる」87.5%、「生徒の人権を尊重する姿勢で指導している」87.9%、「生徒の間違った行動を改めようとしている」94.1%に見られるように、生徒指導面が安定している。
- ②「先生は自分たちのことを理解している」78.7%であるが、もっと高い数字になって欲しい。
- ③英検の結果は素晴らしい。 高校 準1級 4人 2級 253人 準2級 247人

校長

①について

いじめは人権をじゅうりんする事象であり、学校教育の場ではあってはならないと考えている。いじめでは無いが、生徒同士の意志疎通が上手く行か

ない事例等は発生しており、今後さらに的確な指導して行きたい。

②について

当然、担任はクラスの生徒を理解し熟知していると思われる。しかし、非常勤講師等では十分とは言えないことがあるかも知れないので次年度は改善に向けて取組みたい。

③グローバルな社会においてはコミュニケーションツールとして英語は必須であると考えている。更に上位者を増やして行きたいと考えている。

3. 小野委員

①ボランティア活動はどうなっているか。

②野球部など施設が狭い中、良く頑張っている。どの様に練習しているのか。また、スポーツは地域でのアピールに繋がると思うがどの様に考えているのか。

③英語検定は素晴らしい。

校長

①について

守口ロータリークラブのご協力とご指導のもと、インターアクトと言って国際的なボランティア活動を実施している。また、定期的に学校周辺の清掃活動に取り組んでいる。一般的な中学校では社会体験として企業等での労働体験をしているが本校の中学部では「ココロの奉仕」として、「老人ホーム」「デイサービス」「保育園」「幼稚園」等における体験学習を行い、好評を得ている。そのほか、ブラスバンド部が老人ホームや幼稚園で演奏を行ったり、音楽の授業における歌声の披露などを同じ様に老人ホーム等で行っている。

②について

本校では野球部に限らず多くの部では十分な施設がない。しかし、創意工夫して練習に取り組んでいる。野球部が夏の大会では今年も3回戦まで勝ち進んだ。地域から応援をいただくとありがたい。さらに精進するように伝える。

③について

グローバルに活躍できる生徒を育成することは本校の教育目標でもある。今後さらに伸ばして行きたい。

4. 岩本委員

①教員アンケートで「事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。」が79.6%は素晴らしいが、その反面20%の教員が肯定的な回答ではないがどの様に考えるか。

②保護者アンケートで「学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。」が53.5と低いとどの様に考えているか。

③生徒アンケートで「先生は、熱心に指導している」の92.3%は良い。

校長

①について

平成30年6月18日に起こった大地震では出勤途中で電車が止まる等の事態となり、教員が勤務時間以外の際に災害が起こった場合の動き方については混乱が生じたことは事実であるが今後改善を行う。

②について

近隣の学校で校舎を建替えた学校があるので本校の校舎は古く感じられることはやむを得ない。また、ICTの整備をPRしている学校もあるが本校はマイナス面を慎重に考えている。しかし、全ての教室にプロジェクターを設置済みであり、また、クロームブックを70台設置する等ICT環境の改善には取り組んでいる。クロームブックはアイパッドと異なりキーボード入力である。今後、キーボード入力は必要になると考えている。

③教員が熱心であるという評判をいただき感謝している。今後、さらに改善に取り組む。

5. 鈴木理事

①生徒のアンケートにおいてクラス間のばらつきが見られるがどう考えているか。

②ボランティア活動については地域からの要求はあるか。

校長

①クラス間でのばらつきはある。十分に分析したわけではないが、クラス間での意識の違いがあることは確かであると思われる。

次年度は改善を行いたい。

②小学生達の登下校の見守りなどは地域で行われているが本校への要請は無い。なにか具体的な要望があれば前向きに検討して行きたい。